

平成 2 7 年度業務実績調書

平成 2 8 年 6 月 2 8 日

地方独立行政法人市立秋田総合病院

1 法人概要（平成27年4月1日現在）

(1) 法人名

地方独立行政法人市立秋田総合病院

(2) 所在地

秋田市川元松丘町4番30号

(3) 役員の状況

役職	氏名	備考
理事長	小松眞史	
副理事長	伊藤誠司	院長
理事	吹谷由美子	看護部長
理事	本間斗	事務局長兼経営企画部長
理事	佐々木秀平	秋田県総合保健事業団非常勤嘱託医師 上小阿仁村国保診療所嘱託医師
監事	田中伸一	弁護士
監事	堀井照重	公認会計士

(4) 設置・運営する病院

名称 市立秋田総合病院

所在地 秋田市川元松丘町4番30号

病床数 一般病床376床、精神病床60床、結核病床22床

計458床

(5) 職員数

787人（正職員508人、任期付再雇用職員11人、嘱託職員98人、臨時職員35人、パート職員135人）

2 全体的な活動状況

地方独立行政法人設立後2年目の平成27年度は、引き続き中期目標の達成に向けて、結核・精神・救急等の政策的な医療やがん診療などの高度な医療などを総合的に提供し、地域の中核的な病院としての役割を果たしました。

入院延患者数は、129,949人（1日平均355人）、外来延患者数は、286,909人（1日平均1,181人）となり、前年度に比較して入院が0.0%の増とほとんど増減がなく、また、外来では5.4%減少し、全体で

3. 8%の減少となりました。病床利用率は、全病床で77.5%、一般病床で82.9%となり、前年度に比較して全病床で0.2ポイント、一般病床で0.1ポイントの減少となりました。

(1) 平成27年度の特徴ある取り組み

診療面においては、がん治療では、低侵襲手術を積極的に導入したほか、外科的治療、化学療法、放射線治療および緩和医療を効果的に用いながら集学的治療を実施するとともに、がん患者リハビリテーションや周術期の口腔ケアを積極的に実施し、患者のQOLの向上に努めました。

また、女性と子どもに優しい病院を目指し、小児科救急では平日24時間と休日の日中に小児科医が常駐する救急体制を維持して多くの患者を受け入れるとともに、引き続き病児保育施設の運営や夕暮れがん検診などを行いました。

さらに、救急医療や結核・精神疾患といった採算性の低い医療についても公的医療機関として引き続き提供し、精神科病棟を有する総合病院として、身体合併症を持つ精神病患者の受入れを積極的に行いました。

また、今後増加が予想される高齢者医療では、総合診療科において高齢者等に対する全人的医療を提供したほか、もの忘れ外来により認知症の早期発見・早期治療に努めました。

人材の確保と育成については、嘱託医師の正職員化や3年連続で初期研修医がフルマッチするなど、医師確保に一定の成果があったほか、看護師や臨床検査技師、さらに職務経験豊富な事務職員の採用などを行いました。

また、新しい医療技術の習得や専門知識の向上をはかるため、学会や研修会に参加するなど人材の育成に努めました。

そのほか、院内教室を積極的に実施したほか、市の関係機関等と連携して「タニタ健康カフェ」や「あらや健康セミナー」を新たに実施し、医療や健康に関する情報の発信と普及啓発に努めました。

業務運営改善については、医師事務作業補助者の増員や予約枠の適正化等により、患者の待ち時間が大幅に短縮されました。

また、電子カルテシステムの安定的な運用により、効率的な医療の提供に努める一方、医療事務に精通した人材を確保して、より適切な診療報酬請求事務の実施を図りました。

また、病院機能評価の認定更新に向け、職員一丸となって医療の質と患者サー

ビスの向上に取り組んだ結果、「一般病院2」が更新されたほか、副機能として初めて受審した「精神科病院」も認定されました。

(2) 財務状況

市民の医療ニーズに応えるため、法人の裁量で効率的な病院経営が可能となる地方独立行政法人のメリットを活かし、高度医療機器の導入や優れた人材の確保・育成など診療機能充実のための基盤づくりをすすめました。

収益に関しては、入院については、患者数、収益ともほぼ横這いであり、また、外来については、患者数が減少したものの診療単価が上昇したことから収益は増加しました。

これらにより、収益は前年度より増加しました。

一方、費用に関しては、職員数の増等により給与費が増加したほか、平成27年3月に導入した電子カルテの減価償却費の影響等により、費用が前年度より大幅に増加しました。

この結果、平成27年度の損益は、前年度よりは黒字が縮小し、4.2億円の黒字となりました。

(3) 中期計画の進捗状況

平成27年度年度計画中、Ⅴ「年度計画を大幅に上回って実施している」が3項目、Ⅳ「年度計画どおり実施している」が43項目、Ⅲ「年度計画を概ね実施している」が6項目で平均3.9点と全てⅢ以上であり、中期計画を概ね順調に実施しています。

(4) 各項目の実施状況および自己評価

別紙「項目別評価実施状況一覧」による

【評価基準】

- V：年度計画を大幅に上回って実施している。
- IV：年度計画どおり実施している。
- III：年度計画を概ね実施している。
- II：年度計画を十分には実施していない。
- I：年度計画を実施していない。

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>地方独立行政法人市立秋田総合病院中期計画（以下「本計画」といいます。）は、地方独立行政法人市立秋田総合病院の発足後第1期の中期目標を達成するために策定するものであり、以下の理念と基本方針の下、地方独立行政法人制度の持つ自律性や柔軟性を最大限発揮し、効率的な業務運営を行うとともに、地域の中核的な公的医療機関として、がん診療をはじめとした高度・専門医療や救急医療、小児・周産期医療など、地域に必要な医療を継続的に提供することにより、市民の健康の維持および増進に努めます。</p> <p>理念 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。</p> <p>基本方針 1 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。 2 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。 3 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。 4 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。 5 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。</p>						

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>第1 本計画の期間 本計画の期間は、平成26年4月1日から平成31年3月31日までとします。</p> <p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 良質で安全な医療の提供 地域における中核的な公的医療機関として、市民の多様なニーズに応え、市民の健康の維持および増進に寄与するため、医療機器の整備等により、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患の5疾病に対応する医療や救急医療などを提供します。</p> <p>(1) 高度・専門医療の提供 市立秋田総合病院の行う高度・専門医療を充実させるため、医療機器の計画的な更新・整備を行うとともに、医療従事者の専門性を高めることなどにより、診療機能の向上に努めます。</p> <p>ア がんへの対応 秋田県がん診療連携推進病院として、引き続き、がんに対する難易度の高い外科的治療をはじめ、低侵襲の非外科的治療、化学療法および放射線治療を行うとともに緩和医療を効果的に行い、集学的治療を実施します。</p>	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 良質で安全な医療の提供 地域における中核的な公的医療機関として、市民の多様なニーズに応え、市民の健康の維持および増進に寄与するため、医療機器の整備等により、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患の5疾病に対応する医療や救急医療などを提供します。</p> <p>(1) 高度・専門医療の提供 市立秋田総合病院の行う高度・専門医療を充実させ、最新・最適な医療を提供するため、血管撮影装置等の医療機器を更新します。 加えて専門的な研修の受講等により医療従事者の専門性を高め、診療機能の向上に努めます。</p> <p>ア がんへの対応 秋田県がん診療連携推進病院として、引き続き、がんに対する難易度の高い外科的治療をはじめ、低侵襲の非外科的治療、化学療法および放射線治療を行うとともに緩和医療を効果的に行い、集学的治療を実施します。 具体的には、大腸がん肝転移に対しては、手術と化学療法を組み合わせた集学的治療を推し進め、増え続ける大腸がん患者の治療成績の向上を図ります。 また、膵がんに対する治療では、切除可能かどうかの判断が難しいボーダーライン症例に対して術前化学療法＋放射線療法を積極的に行い、根治性を高めてから手術を行って、その治療成績の向上を図ります。 また、低侵襲手術である内視鏡的手術や腹腔鏡下手術を適用を見極めながら積極的に実施します。 さらには、乳がんについては、ハイリスク乳がん患者に対して乳房MRI 検診を引き続き実施し、乳がんの早期発見に努めます。</p>		1	<p>【業務実績】 秋田県がん診療連携推進病院として、引き続きがんに対する難易度の高い外科治療をはじめ、非外科的治療、放射線療法および化学療法等を効果的に行い、集学的治療を実施しました。 具体例としては、大腸がん肝転移については、手術と化学療法の組み合わせによる治療を15例実施したほか、膵がんについては術前化学療法と放射線療法を行ってからの手術を5例実施しました。 また、平成26年4月に施設認定を受けた腹腔鏡下肝切除・膵切除の保険医療について、慎重に腹腔鏡下手術の適応症例を選択して腹腔鏡下肝切除を4例施行し、問題なく退院しました。 ほぼすべての手術患者に対してがん患者指導管理を行い、説明書を手渡して説明を十分に行うなど、病状の理解が深まるよう努めました。 また、秋田大学医学部教授を講師に迎えてのキャンサーボードを開催するとともに院内がん登録を実施し、がん診療の質の向上に努めました。 また、患者のQOLを維持するため、緩和ケアチームによる緩和ケアを行うとともに、がん患者リハビリテーションや周術期の口腔ケアを積極的に実施しました。 なお、ハイリスク乳がん患者に対する乳房MRI 検診は、実施に至りませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科的手術 365件（前年度366件） ・胸腔鏡・腹腔鏡手術 53件（前年度83件） ・内視鏡手術 94件（前年度113件） ・化学療法 2,582件（前年度2,863件） ・放射線治療 4,156件（前年度4,027件） ・キャンサーボード開催数 11回（前年度10回） ・院内がん登録 919件（前年度814件） ・緩和ケア外来受診者数 66人 ・がん患者リハビリテーション 2,419件（前年度1,638件） ・周術期口腔機能管理料算定件数 765件（前年度601件） <p>*キャンサーボード：がん医療に携わる専門職が集まり、個々の患者の状態に応じた適切な治療を検討する場</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由																																							
				平成27年度購入医療機器(400万円以上) <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>金額</th> <th>区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>血管撮影装置</td> <td>128,898,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>眼科手術・検査システム一式</td> <td>40,932,000</td> <td>補充</td> </tr> <tr> <td>内視鏡システム一式</td> <td>34,368,333</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>超音波診断装置</td> <td>16,999,200</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>手術室无影灯・手術映像録画システム</td> <td>11,394,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>新生児小児人工呼吸器</td> <td>10,044,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>麻酔システム</td> <td>9,504,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>医療機器管理システム</td> <td>6,744,600</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>ラジオ波焼灼装置</td> <td>6,372,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>脊髄手術セット</td> <td>6,155,464</td> <td>補充</td> </tr> <tr> <td>密閉型自動包埋装置</td> <td>5,265,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>ICUベッド</td> <td>4,860,000</td> <td>更新</td> </tr> </tbody> </table> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 がん治療について、引き続き難易度の高い外科治療や集学的医療を実施したことによる。</p>	品名	金額	区分	血管撮影装置	128,898,000	更新	眼科手術・検査システム一式	40,932,000	補充	内視鏡システム一式	34,368,333	更新	超音波診断装置	16,999,200	更新	手術室无影灯・手術映像録画システム	11,394,000	更新	新生児小児人工呼吸器	10,044,000	更新	麻酔システム	9,504,000	更新	医療機器管理システム	6,744,600	更新	ラジオ波焼灼装置	6,372,000	更新	脊髄手術セット	6,155,464	補充	密閉型自動包埋装置	5,265,000	更新	ICUベッド	4,860,000	更新		
品名	金額	区分																																											
血管撮影装置	128,898,000	更新																																											
眼科手術・検査システム一式	40,932,000	補充																																											
内視鏡システム一式	34,368,333	更新																																											
超音波診断装置	16,999,200	更新																																											
手術室无影灯・手術映像録画システム	11,394,000	更新																																											
新生児小児人工呼吸器	10,044,000	更新																																											
麻酔システム	9,504,000	更新																																											
医療機器管理システム	6,744,600	更新																																											
ラジオ波焼灼装置	6,372,000	更新																																											
脊髄手術セット	6,155,464	補充																																											
密閉型自動包埋装置	5,265,000	更新																																											
ICUベッド	4,860,000	更新																																											
イ 脳卒中への対応 脳卒中をはじめとした脳血管疾患に対しては、救急医療に対応する体制を維持するとともに、急性期および回復期リハビリテーションの充実に努めます。	イ 脳卒中への対応 脳卒中をはじめとした脳血管疾患に対しては、救急医療に対応する体制を維持するとともに、急性期および回復期リハビリテーションの充実に努めます。		2	<p>【業務実績】 夜間休日を含めた24時間CT・MRI検査体制を継続し、超急性期脳卒中加算の届出施設として急性期の脳卒中患者に対する救急体制を維持しました。 また、入院早期からリハビリテーションを積極的に実施したほか、急性期治療を経過した患者については、試行的に開始した地域包括ケア病棟へ転棟させ、在宅復帰支援を行いました。 併せて、医療機能分化による地域医療機関への逆紹介にも努めました。</p> <p>・脳血管疾患リハビリテーション 8,249件（前年度4,278件）</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 脳血管疾患リハビリテーションの件数が大幅に増加したことによる。</p>	V																																								

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由										
ウ 急性心筋梗塞への対応 24時間対応可能な冠動脈カテーテル治療とその後のICUでの管理により、更なる救命率の向上を目指します。	ウ 急性心筋梗塞への対応 24時間対応が可能な冠動脈カテーテル治療とその後のICUでの管理により、更なる救命率の向上を目指します。		3	<p>【業務実績】 24時間365日対応可能な急性心筋梗塞治療を、常にカテーテル治療学会専門医・認定医が行いました。 冠動脈カテーテル治療においてはIABPやPCPSの補助循環も使用可能であり、経皮的冠動脈形成術や冠動脈ステント留置術を実施して救命率の向上に繋げるとともに、その後はICUで適切な管理を行いました。 また治療後は、心大血管疾患リハビリテーションを積極的に取り入れ、予後の改善に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 冠動脈カテーテル治療 89件（前年度79件） 緊急冠動脈カテーテル治療における救命率 95.5%（前年度90.5%） 心大血管疾患リハビリテーション 3,497件（前年度3,667件） <p>冠動脈カテーテル治療件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>102</td> <td>117</td> <td>108</td> <td>79</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	102	117	108	79	89	IV	
23年度	24年度	25年度	26年度	27年度												
102	117	108	79	89												
エ 糖尿病への対応 チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等の糖尿病治療を提供するとともに、予防目的を含めた糖尿病教室を引き続き定期的に関行することにより、患者の意識啓発等の推進に努めます。	エ 糖尿病への対応 チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等の糖尿病治療を提供するとともに、予防目的を含めた糖尿病教室を引き続き定期的に関行することにより、患者の意識啓発等の推進に努めます。		4	<p>【業務実績】 食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせたチーム医療による糖尿病の教育入院を実施したほか、糖尿病フットケア外来において、糖尿病性足病変患者への対応を行いました。 また、患者や市民の意識啓発のため定期的に糖尿病教室を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病教育入院 28件（前年度29件） 糖尿病フットケア外来受診者数 55人 糖尿病教室開催 12回（前年度13回） <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV											

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>オ 精神疾患への対応 市内における総合病院で唯一の精神科の閉鎖病棟を引き続き運営します。 また、高齢化に伴い身体合併症を有する患者が増加していることから、身体合併症を有する精神疾患の対応病院としてその役割が増大しており、今後も急性期入院治療をはじめとする総合病院に求められる精神医療の充実に努めます。</p>	<p>オ 精神疾患への対応 市内における総合病院で唯一の精神科の閉鎖病棟を引き続き運営します。 身体合併症を有する精神疾患の対応病院として、総合病院に求められる精神医療の充実に努めます。 また、統合失調症や気分障害などの急性期入院治療、多様化と重症化する神経症圏の病態（摂食障害や人格異常など）への外来・入院治療に加え、児童思春期精神医療への積極的な取り組みを行います。</p>		5	<p>【業務実績】 身体合併症を有する精神病患者の受入れを積極的に行うため、市内の精神科病院への働きかけを行うなどにより、身体合併症患者の受入れを図り、総合病院に求められる精神医療の実施に努めました。 また、統合失調症や気分障害などの急性期入院治療を行ったほか、神経症圏の病態への治療や児童思春期精神医療への取り組みを行いました。 また、心理教育の一環として引き続きうつ病教室を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症入院 93件（前年度86件） ・気分障害入院 76件（前年度82件） ・神経症圏新患 108件（前年度157件） ・児童思春期精神医療新患 40件（前年度45件） ・うつ病教室開催 3回（前年度3回） <p>-----</p> <p>【特記事項】 身体合併症を持つ精神病患者を積極的に受入れ、入院件数が増加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体合併症入院 87件（前年度65件） <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(2) 救急医療の提供 心筋梗塞、急性腹症、脳卒中などへの緊急対応も可能な二次救急医療機関として、24時間365日の対応を継続します。</p>	<p>(2) 救急医療の提供 救急外来において24時間365日、救急患者の受入れを行うとともに、ICU（集中治療室）において、急性心筋梗塞、院外心肺停止、心不全、アナフィラキシーショック、大量薬物中毒等の重篤患者に高度の集中治療を行います。</p>	<p>【27年度計画目標指標】 救急搬送患者受入件数：2,200件</p>	6	<p>【業務実績】 救急外来患者は22,123件（前年度22,998件）と前年度に比べ減少しましたが、救急外来からの入院患者が2,181件（前年度2,003件）と増加しました。 救急搬送は2,110件（前年度1,992件）あり、秋田周辺医療圏の二次救急病院として地域の救急医療の一翼を担いました。 なお、救急搬送の要請に対して、救急室の処置ベッドが満床だったなどの理由により、やむなく受入れに至らなかった事例もありましたが、事後に救急隊員などを含めたカンファレンスを開催して検証を行うなど、受入体制の強化に努めました。 また、日本集中治療医学会専門医研修施設として、ICUで高度の集中治療を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICU利用件数 1,403件（前年度1,607件） 	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由																		
				<p>【特記事項】 救急搬送患者の受入れに努め、受入れに至らなかった件数が減少しました。</p> <p>・救急搬送の受入れに至らなかった件数 40件（前年度44件）</p> <p>【自己評価の理由】 救急搬送患者受入件数は達成できなかったが、受入れに至らなかった件数が減少したことによる。</p>																				
<p>(3) 採算性が低い医療の提供 採算性が低く民間医療機関では提供が不十分な医療については、市が設置する医療機関の公的使命として、今後も継続して提供します。</p> <p>ア 結核医療 結核病床を有している秋田周辺医療圏内で唯一の医療機関であることを踏まえ、秋田県医療保健福祉計画や結核患者数の動向を見据えながら、地域において求められる結核病床数を維持し、引き続き結核医療を提供します。</p>	<p>(3) 採算性が低い医療の提供 採算性が低く民間医療機関では提供が不十分な医療については、市が設置する医療機関の公的使命として、今後も継続して提供します。</p> <p>ア 結核医療 結核病床を有している秋田周辺医療圏内で唯一の医療機関であることを踏まえ、地域において求められる結核病床数を維持し、引き続き結核医療を提供します。 また、今後増加することが予測される潜在性結核感染症患者の診断と治療に積極的に取り組みます。</p>		7	<p>【業務実績】 採算性が低く民間医療機関では実施が困難な結核医療を引き続き提供したほか、潜在性結核感染症患者については、4人（前年度7人）の患者に対し、治療を行いました。</p> <p>結核病床(22床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率</td> <td>41.5</td> <td>41.7</td> <td>37.1</td> <td>31.0</td> <td>33.5</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,339</td> <td>3,345</td> <td>2,976</td> <td>2,487</td> <td>2,695</td> </tr> </tbody> </table> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 結核病床を維持し、地域において求められる結核医療を提供できたことによる。</p>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	病床利用率	41.5	41.7	37.1	31.0	33.5	入院延患者数	3,339	3,345	2,976	2,487	2,695	IV	
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																			
病床利用率	41.5	41.7	37.1	31.0	33.5																			
入院延患者数	3,339	3,345	2,976	2,487	2,695																			
<p>イ 精神医療 (1)の才の精神疾患への対応のとおり、精神医療の充実に努めます。</p>	<p>イ 精神医療 (1)の才の精神疾患への対応のとおり、精神医療の充実に努めます。</p>		8	<p>【業務実績】 (1)の才の精神疾患への対応のとおり、精神医療を実施しました。</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV																			

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(4) 健診体制の充実 市民の疾病の予防や早期発見・早期治療のため、きめ細かな検診項目の設定や利便性の向上に配慮しながら、引き続き人間ドックをはじめ、企業検診の受託などを行います。</p>	<p>(4) 健診体制の充実 市民の疾病の予防や早期発見・早期治療のため、健康管理センター運営協議会においてきめ細かな検診項目の設定や利便性の向上について検討し、人間ドックの充実を図るほか、特定健診・特定保健指導や企業検診の受託などを行います。 また、新たに導入した健診システムを活用し業務の効率化を図ります。</p>		9	<p>【業務実績】 人間ドックのオプション項目について、甲状腺超音波検査、頸動脈超音波検査を1日ドックにも追加したほか、健診システムの導入により業務の効率化が図られ、受診者へ結果報告書を送付するまでの日数が大幅に短縮されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間ドック 1日ドック 1,292件（前年度1,113件） 2日ドック 469件（前年度370件） 人間ドックオプション 腫瘍マーカー検査 273件（前年度337件） ピロリ菌検査 143件（前年度242件） 甲状腺超音波検査 78件（前年度41件） 頸動脈超音波検査 127件（前年度63件） 特定健診 383件（前年度421件） 特定保健指導 31件（前年度25件） <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(5) 医療安全対策等の強化 ア 医療安全対策の強化 職員からのインシデント・アクシデント報告を徹底させ、毎月開催する医療安全対策委員会での分析を行いリスクを回避する方策を立案するなど医療安全対策に取り組むとともに、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて医療安全についての意識の向上を図り、引き続き医療を安全に提供しよう努めます。</p> <p>【中期計画目標指標】 インシデント報告数：1,100件 医療安全に関する教育・研修会開催数：20講座</p>	<p>(5) 医療安全対策等の強化 ア 医療安全対策の強化 職員からのインシデント・アクシデント報告を徹底させ、毎月開催する医療安全対策委員会での分析を行いリスクを回避する方策を立案するなど医療安全対策に取り組むとともに、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて医療安全についての意識の向上を図り、引き続き医療を安全に提供しよう努めます。 また、院内暴力の抑止のため、警備員の24時間配置を継続します。</p>	<p>【27年度計画目標指標】 インシデント報告数：1,025件 医療安全に関する教育・研修会開催数：16講座31回</p>	10	<p>【業務実績】 職員からのインシデント・アクシデント報告を徹底させ、毎月開催する医療安全対策委員会での分析を行いリスクを回避する方策を立案するなど医療安全対策に取り組みました。 全職員に対して、年2回の受講を義務付けている医療安全に関する研修については、1回目の研修会が82.0%、2回目が91.8%の参加でしたが、1回目の不参加者135人と2回目の不参加者60人の全員に研修内容の確認テストを実施し、受講率は100%となりました。 また、警備員の24時間配置を継続実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> インシデント報告数：954件（前年度931件） 医療安全に関する教育・研修会 14講座延べ30回開催、延べ1,708人参加（前年度14講座延べ32回開催、延べ1,614人参加） <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 研修の受講率は増加したが、インシデント報告数が目標に達しなかったことによる。</p>	III	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由								
<p>イ 院内感染防止対策の強化 院内感染対策チームによる週1回の院内巡回や情報の収集、調査、分析、対策の立案等により院内感染の防止を図るほか、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて院内感染についての知識の習得と意識の向上を図り、引き続き病院全体として院内感染防止に取り組みます。</p>	<p>イ 院内感染防止対策の強化 毎月開催の院内感染対策委員会や院内感染対策チームによる週1回の院内巡回により、院内感染に係る情報の収集、調査、分析、対策の立案等を行い、感染対策専用掲示板や院内情報ネットワークの活用により情報の周知に努めて院内感染の防止を図ります。 また、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて院内感染についての知識の習得と意識の向上を図り、引き続き病院全体として院内感染防止に取り組めます。 さらには、感染防止対策地域連携加算の算定病院として、連携病院の評価を受け、感染防止対策の実効性を高めます。</p>		11	<p>【業務実績】 院内感染対策チームで感染情報の調査、分析、対策の立案等を行い、それを院内情報ネットワーク等で周知したほか、院内巡回を毎週行いました。 また、冬期間の季節性疾患の流行時には、入院患者への面会制限を実施したほか、面会者対応としてそれまでのベルトパーティションに替えて据付のパーティションを設置し、面会者の動線を完全に限定するようにしました。 全職員を対象とした感染防止対策研修には、2回参加が対象職員762人中631人(82.8%)でした。1回参加の108人に対しては全5回の研修会の資料を回覧しました。また、1度も参加していない23人については全5回の研修会資料を読んだ感想についてレポートを提出してもらうこととし19人がレポートを提出しました。これにより、資料回覧、レポート提出も含めた研修受講率は758人99.5%となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策研修 5回開催、延べ 1,512 人参加（* 医師向け研修会1回開催 54名参加）（前年度 5回開催、延べ1,282人参加） ・合同カンファレンス 4回開催、3医療機関参加、延べ76人参加（前年度 4回開催、3医療機関参加、延べ75人参加） ・連携病院による評価 2回（前年度2回） <p>* 合同カンファレンス：感染防止対策についての課題解決や連携病院と実施している相互評価の質の向上等を図るため、地域の連携病院と開催するカンファレンス</p> <p>新規MRSA平均発生率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.72</td> <td>0.91</td> <td>0.86</td> <td>1.03</td> </tr> </tbody> </table> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。</p>	24年度	25年度	26年度	27年度	0.72	0.91	0.86	1.03	IV	
24年度	25年度	26年度	27年度											
0.72	0.91	0.86	1.03											

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(6) 女性と子どもに優しい病院づくり 女性特有の疾患に関する医療や小児医療の充実を図り、女性と子どもに優しい病院を目指します。</p> <p>ア 女性に優しい病院づくり 乳がんや子宮がんなど女性特有の疾患に関する医療の一層の充実を図るとともに、女性が受診・相談しやすい医療環境の整備に努めます。</p>	<p>(6) 女性と子どもに優しい病院づくり 女性特有の疾患に関する医療や小児医療の充実を図り、女性と子どもに優しい病院を目指します。</p> <p>ア 女性に優しい病院づくり 乳がんや子宮がんなど女性特有の疾患に関する医療の一層の充実を図るとともに、日中は来院できない市民のため夕方に秋田市の乳がん・子宮頸がん検診を行う「夕暮れ乳がん・子宮頸がん検診」を引き続き実施するなど、女性が受診・相談しやすい医療環境の整備に努めます。</p>		12	<p>【業務実績】 乳がんや子宮がんなど女性特有の疾患に関する医療を提供するとともに、乳がん看護認定看護師が中心となって乳がん患者のセルフケアや乳房切除に伴う心理面でのケアを行いました。 また、日中は来院できない市民のため、夕暮れ乳がん検診と夕暮れ子宮頸がん検診を引き続き実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕暮れ乳がん検診 243件（前年度326件） ・夕暮れ子宮頸がん検診 86件（前年度95件） <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>イ 小児医療体制の充実 小児科医が平日24時間診療を行う小児科救急を引き続き実施するとともに、アレルギー外来の充実を図り、秋田市の目指す「子どもを生き育てやすい環境づくり」の一翼を担います。</p>	<p>イ 小児医療体制の充実 小児科医が平日24時間診療を行う小児科救急を引き続き実施するとともに、アレルギー外来や子どもの心相談外来などの特殊外来の継続実施により、秋田市の目指す「子どもを生き育てやすい環境づくり」の一翼を担います。</p>		13	<p>【業務実績】 近隣の小児科医等の地域医療機関の協力を得て、平日24時間と休日の日中に小児科医が常駐する小児科救急外来を運営し、市内外から多くの利用がありました。 また、小児科においては、アレルギー外来や子どもの心相談外来などの専門外来を継続実施し、きめ細かな小児医療の提供に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科救急外来受診者数 9,428人（前年度9,897人） ・小児食物アレルギー負荷検査 14件（前年度113件） ・こどもの心相談外来相談件数 1,160件 <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>ウ 産科医療の充実 緊急母体搬送の受入れを行うほか、合併症妊娠、切迫流産、重症妊娠中毒症の管理を行うなど、正常分娩以外にも対応し、安全で快適な出産環境を提供します。</p>	<p>ウ 産科医療の充実 緊急母体搬送の受入れを行うほか、合併症妊娠、切迫流産、重症妊娠中毒症の管理を行うなど、正常分娩以外にも対応し、安全で快適な出産環境を提供します。 また、秋田県産婦人科医会等が実施する「妊娠中からの子育て支援事業」に参加し、秋田市と連携して患者の妊娠・出産・育児に関する悩み等に対応します。</p>		14	<p>【業務実績】 緊急母体搬送の受入れを行ったほか、合併症妊娠、切迫流産、重症妊娠中毒症の管理を行うなど、正常分娩以外にも対応し、安全で快適な出産環境を提供しました。 また、秋田県医師会が実施する「妊娠中からの子育て支援事業」に参加し、養育支援が必要と思われる妊産婦について、秋田市の担当部署に情報提供を行う等、秋田市と連携して患者の妊娠・出産・育児に関する悩み等に対応しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩件数 251件（前年度254件） ・緊急母体搬送受入 1件（前年度1件） ・妊娠中からの子育て支援事業実績件数 19件（前年度13件） 	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
				【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。		
エ 遺伝カウンセリング外来の運営 遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関してカウンセリングを行い、遺伝病等に関する詳しい情報や専門的な情報を提供するとともに、心理面のサポートを行います。	エ 遺伝カウンセリング外来の運営 遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関してカウンセリングを行い、遺伝病等に関する詳しい情報や専門的な情報を提供するとともに、心理面のサポートを行います。		15	【業務実績】 遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関する遺伝カウンセリング外来を運営しました。 遺伝カウンセリング外来1件（前年度3件） 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。	IV	
オ 病児保育施設の設置・運営 市の子ども関連部局と連携し、病児対応型の病児保育施設を設置・運営します。	オ 病児保育施設の運営 子育て世代が安心して働けるように引き続き病児保育施設を運営するとともに、ホームページの充実や園開放等の行事を企画し登録数の増加に努めます。		16	【業務実績】 病児保育施設を運営し、市内の保育所、幼稚園等へ周知を図ったほか、園開放を随時行い、利用登録数の増加に努めました。 ・病児保育園「あすなろ」 定員 10名 開設日時 平日の7:00～18:00 登録者（年度末） 416人（前年度429人） 利用者 590人（前年度611人） 【特記事項】 【自己評価の理由】 利用登録者の増を達成できなかったことによる。	III	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(7) 高齢者に配慮した医療の充実 加齢に伴う認知症などの精神疾患や運動器障害など、いくつもの疾病を併せ持つ高齢者の増加への対応に努めます。 精神疾患に関しては、身体合併症を有する精神疾患の対応病院として、従前同様にその機能を十分に果たすほか、もの忘れ外来において、認知症の早期発見・早期治療に努めます。 また、運動器障害に関しては、適切に傷病の治療を行うとともに早期に開始される急性期リハビリテーションや回復期リハビリテーションの充実を図り、高齢者の残存機能を引き出し、自立した生活への復帰を促します。</p>	<p>(7) 高齢者に配慮した医療の充実 総合診療科の機能を充実し、専門各科と連携して、いくつもの疾病を併せ持つ高齢者等への対応に努めるとともに、常勤医の赴任に伴い加齢性の眼疾患に対する手術を再開します。 また、長寿化に伴い高齢の精神病患者が増加していることから、身体合併症を有する精神疾患の対応病院として、その機能を十分に果たします。 また、もの忘れ外来において、認知症の早期発見・早期治療に努めるほか、地域における専門的な診断や相談等を行う認知症疾患医療センターの指定に向け、積極的に取り組みます。 さらに、運動器障害を有する高齢者に対しては、適切に傷病の治療を行うとともに早期に開始される急性期リハビリテーションや回復期リハビリテーションの充実を図り、高齢者の残存機能を引き出し、自立した生活への復帰を促します。 また、ロコモティブシンドロームについての予防医学的なりハビリテーションの展開を図ります。</p>		17	<p>【業務実績】 総合診療科（院内標ぼう）を開設し、いくつもの疾病を併せ持ち診療科を決定しにくい高齢者等の初診患者に対する全人的医療を提供しました。また、加齢性の眼疾患の手術を再開しました。加えて、長寿化に伴い高齢の精神病患者が増加していることから、身体合併症を有する精神病患者の受入れを積極的に行いました。 また、もの忘れ外来において、認知症の早期発見・早期治療に努めたほか、地域における専門的な診断や相談等を行う認知症疾患医療センターの指定に向けての取り組みを行いました。 さらに、運動器障害を有する高齢者に対しては、適切に傷病の治療を行うとともに早期に開始される急性期リハビリテーションや回復期リハビリテーションの充実を図り、高齢者の残存機能を引き出し、自立した生活への復帰を促しました。 また、転倒予防教室を開催し、ロコモティブシンドロームについての予防医学的な取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科受診者数 49人（前年度16人） ・加齢性眼疾患手術件数 355件 ・精神科身体合併症入院 87件（前年度65件） ・もの忘れ外来受診者数 162人（前年度192人） ・運動器リハビリテーション 14,944件（前年度13,663件） ・転倒予防教室開催数 2クール（1クール4回） ・転倒予防教室参加者数 10人 <p>-----</p> <p>【特記事項】 秋田市エイジフレンドリーパートナーに登録し、高齢者にやさしい都市づくりに参加しました。 取組内容 ・正面玄関入口付近に、地下売店のサテライトショップを設置 ・入院時に便利な「入院セット」の導入 ・会計順番表示システムの導入 ・転倒予防教室の開催 ・市立病院＆あらや健康セミナーの開催</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(8) 患者の視点に立った医療の実施 患者や家族が納得して医療を受けられる体制を維持するとともに患者サービスの向上を図ります。</p> <p>ア 患者や家族の権利の尊重 患者や家族に対して治療方針や治療経過などを丁寧にわかりやすく説明し、納得の上で治療方法を選択できるよう、インフォームドコンセントの充実・徹底を図ります。 また、医療を自由に選択する患者の権利を守るため、当院又は他の医療機関の患者が主治医とは別の意見を求めた場合には、引き続きセカンドオピニオンの要望に適切に対応します。</p>	<p>(8) 患者の視点に立った医療の実施 患者や家族が納得して医療を受けられる体制を維持するとともに患者サービスの向上を図ります。</p> <p>ア 患者や家族の権利の尊重 患者や家族に対して治療方針や治療経過などを丁寧にわかりやすく説明し、納得の上で治療方法を選択できるよう、インフォームドコンセントの充実・徹底を図ります。 また、医療を自由に選択する患者の権利を守るため、当院の患者が主治医とは別の意見を求める場合には、必要な資料や画像等を貸出しするとともに、他の医療機関の患者に対しては、セカンドオピニオン外来により適切に対応します。</p>		18	<p>【業務実績】 患者や家族に対して治療方針や治療経過などを丁寧にわかりやすく説明し、納得の上で治療方法を選択できるよう、インフォームドコンセントの充実・徹底を図りました。特に身体拘束については、その説明書・同意書の様式や運用を見直して周知徹底を図るとともに、その実施状況について監査を行い、より適正なインフォームドコンセントの実施に努めました。 また、医療を自由に選択する患者の権利を守るため、当院の患者が主治医とは別の意見を求める場合には、必要な資料や画像等を貸出しするとともに、他の医療機関の患者に対しては、セカンドオピニオン外来により適切に対応しました。</p> <p>・セカンドオピニオン 他院の患者が当院医師に意見を求めた場合 6件（前年度7件） 当院の患者が他院医師に意見を求めた場合 19件（前年度19件）</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。</p>	IV	
<p>イ 患者サービスの向上</p> <p>(7) 患者待ち時間の短縮 毎年、待ち時間調査を行った上で、業務の流れの見直しなどを行うとともに、地域医療連携を推進して地域医療機関と役割分担を行い、外来患者数の適正化により、患者の待ち時間の短縮を図ります。</p>	<p>イ 患者サービスの向上</p> <p>(7) 患者待ち時間の短縮 地域医療機関と連携し、逆紹介を行うなどにより予約患者数の適正化を図るほか、医師事務作業補助者（医療クラーク）の増員による診療支援等を行い、待ち時間の短縮に努めます。 また、患者待ち時間調査を行い、医療機能・患者サービス向上委員会において待ち時間の短縮および待ち時間の苦痛軽減策についての検討を継続して行います。</p>		19	<p>【業務実績】 平成26年度に引き続き予約枠の適正化を行うとともに病状が落ちついた患者の逆紹介を進めたほか、医師事務作業補助者の5人増員や採血の迅速化による検査時間の短縮等の結果、待ち時間が大幅に減少しました。</p> <p>・受付から診察開始までの平均待ち時間（予約なし）：58分（前年度2時間07分） ・受付から診察開始までの平均待ち時間（予約あり）：1時間07分（前年度1時間41分）</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施でき、待ち時間が大幅に減少したことによる。</p>	V	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由																				
<p>(イ) 患者満足度調査の実施 毎年、入院患者と外来患者に対して患者満足度調査を実施し、その分析を行って患者サービスの向上に活かします。</p> <p>【中期計画目標指標】 入院患者満足度（満足＋やや満足）：100.0% 外来患者満足度（満足＋やや満足）：100.0%</p>	<p>(イ) 患者満足度調査の実施 入院患者と外来患者に対して患者満足度調査を実施し、医療機能・患者サービス向上委員会においてその分析と患者サービスの向上についての検討を行います。</p>	<p>【27年度計画目標指標】 入院患者満足度（満足＋やや満足）：98.5% 外来患者満足度（満足＋やや満足）：94.0%</p>	20	<p>【業務実績】 患者満足度調査を実施し、医療機能・患者サービス向上委員会において分析・検討を行い、各部門に周知して改善に繋がりました。 なお、調査結果については院内掲示およびホームページへの掲載を行いました。</p> <p>・入院患者満足度（満足＋やや満足）：97.3%（前年度95.2%） ・外来患者満足度（満足＋やや満足）：93.8%（前年度90.9%）</p> <p>患者満足度調査</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>回答数</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院①</td> <td>367</td> <td>253</td> <td>102</td> <td>96.7%</td> </tr> <tr> <td>入院②</td> <td>390</td> <td>249</td> <td>133</td> <td>97.9%</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>1,169</td> <td>656</td> <td>441</td> <td>93.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 前年度よりは満足度が上昇したものの、目標に到達しなかったことによる。</p>	区分	回答数	満足	やや満足	満足度	入院①	367	253	102	96.7%	入院②	390	249	133	97.9%	外来	1,169	656	441	93.8%	III	
区分	回答数	満足	やや満足	満足度																						
入院①	367	253	102	96.7%																						
入院②	390	249	133	97.9%																						
外来	1,169	656	441	93.8%																						
<p>(ウ) 接遇に関する研修の実施 患者等の立場に立った、心のこもった接遇が実践できるよう職員に対して接遇研修を実施します。</p>	<p>(ウ) 接遇に関する研修の実施 患者等の立場に立った、心のこもった接遇が実践できるよう全職員を対象に全体での接遇研修を実施するほか、各部門における接遇リーダーの育成により継続的な接遇研修を実施します。</p>		21	<p>【業務実績】 院外講師による全職員を対象とした接遇研修を1回、各部門から推薦された職員を対象とした接遇リーダー育成研修を3回実施しました。</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。</p>	IV																					
<p>(イ) 院内環境の整備 患者や来院者に快適な環境を提供するため、施設設備の整備や修理を計画的に実施します。</p>	<p>(イ) 院内環境の整備 患者や来院者に快適な環境を提供するため、施設設備の整備や修理を計画的に実施するほか、院内に絵画を展示します。</p>		22	<p>【業務実績】 計画的な整備と修理の実施と突発的な不具合への迅速な対応をしました。 また、新たに寄贈された絵画を展示したほか、花壇の整備など環境整備を行いました。</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画のとおり実施できたことによる。</p>	IV																					

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(オ) 病院ホームページの充実 来院者があらかじめ病院に関する情報を入手し、安心して病院を利用できるよう、ホームページに掲載する病院案内や治療実績等の情報を充実させます。	(オ) 病院ホームページの充実 来院者があらかじめ病院に関する情報を入手し、安心して病院を利用できるよう、ホームページに掲載する病院案内や治療実績等の情報を充実させ、随時および定期的に更新します。		23	<p>【業務実績】 随時情報を更新したほか、新たに当院の臨床指標や病院機能評価の審査結果報告書を掲載するなど、様々な情報の提供に努めました。</p> <p>・ホームページ年間アクセス数 712,602件（前年度671,193件） 一日平均 1,947件（前年度1,839件）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
(カ) 院内行事の実施 院内において音楽会や病院祭を開催し、患者等に安らぎや喜びの場を提供します。	(カ) 院内行事の実施 院内において音楽会や病院祭を開催し、患者や市民へ安らぎや喜びの場を提供します。		24	<p>【業務実績】 病院祭では、恒例の「いこいのコンサート」のほか、バザーや健康相談などいろいろなイベントを企画し、多数の来場がありました。</p> <p>・平成27年度病院祭 平成27年10月31日（土） 参加者数 約350人 主なイベント 第13回いこいのコンサート なんでも健康相談コーナー 救急救命体験コーナー ちびっ子コーナー バザーコーナー など</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(9) 病院改築等に関する調査、検討 病院建物は、全面改築後29年が経過し、施設・設備の老朽化が進むとともに、医療の高度化・専門化等に伴うスペースが確保できないなどの問題も見られるようになっていきます。 当院が目指す医療の充実や施設のアメニティ向上を図るため、病院の改築等に関して、将来を見据えた調査、検討を行います。	(9) 病院改築等に関する調査、検討 病院改築等に関する検討委員会を立ち上げ、改築後の病院施設の規模や機能の検討を進めます。		25	【業務実績】 病院建設検討委員会を6回開催し、検討報告書を作成して市に提出しました。 ----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
	(10) 病床機能の検討 当院が選択すべき病床機能について、秋田県における地域医療ビジョンの策定状況を注視しながら中長期的視点で検討します。		26	【業務実績】 地域における将来の医療需要を勘案し、急性期治療を経過した患者の在宅復帰支援を効果的に行うため地域包括ケア病棟を試行的に開設しました。 ----- 【特記事項】 地域包括ケア病棟については、3カ月間の試行期間を経て、平成28年6月から正式に開設しました。 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
2 医療に関する調査および研究 治療実績や医療に関する情報の蓄積・管理に努めるとともに、診断や治療など臨床に応用するための臨床研究を進めます。 また、新薬の開発等に貢献し、治療の効果と安全性を高めるため、積極的に治療を実施するよう努めます。	2 医療に関する調査および研究 院内がん登録やICD疾病登録など、治療実績や医療に関する情報の蓄積・管理を行うとともに、研究の用に供するためそれらの情報を医師等に提供します。 また、診断や治療など臨床に応用するための臨床研究について、倫理委員会の承認を受けた上で実施します。 さらには、新薬の開発等に貢献し、治療の効果と安全性を高めるための治療を治験審査委員会の承認を受けた上で実施し、審査結果についてはホームページで公表します。		27	【業務実績】 がん登録室および診療情報室が中心となって、院内がん登録やICD疾病登録を行いました。また、診断や治療など臨床に応用するための臨床研究については、倫理委員会で、治験については、治験審査委員会でそれぞれ審査・承認を受けた上で実施しました。 なお、治験審査結果のホームページ公表に加え、倫理委員会審査結果についてもホームページでの公表を開始しました。 ・院内がん登録 919件（前年度814件） ・倫理委員会 16件承認（前年度20件承認） ・治験審査委員会 25件承認（前年度61件承認） ----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>3 人材の確保と育成 良質で安全な医療を提供し、市立病院が担うべき医療機能を充実させるために必要な人材の確保と育成を図ります。</p> <p>(1) 医療職の人材の確保 優秀な医療職の人材を確保するため、効果的な情報発信やPRを実施するとともに、院内保育所の運営など、職員の働きやすい就労環境の充実に努めます。 また、医師や看護師が本来の業務に専念できるよう、医師事務作業補助者や看護補助者の増員を図ります。</p> <p>ア 医師 大学等の関係機関と連携を進め、引き続き医師の確保に努めるとともに、教育研修プログラムの一層の充実により臨床研修医の確保を図ります。</p>	<p>3 人材の確保と育成 良質で安全な医療を提供し、市立病院が担うべき医療機能を充実させるために必要な人材の確保と育成を図ります。</p> <p>(1) 医療職の人材の確保 優秀な医療職の人材を確保するため、ホームページ等様々なメディアによる効果的な情報発信やPRを実施するとともに、院内保育所の運営など、職員にとって働きやすい就労環境の充実に努めます。 また、医師や看護師が本来の業務に専念できるよう、負担軽減に対する体制を整備します。特に医師については、医師事務作業補助者の増員や院外からのタブレット端末による画像読影などにより負担軽減を図ります。</p> <p>ア 医師 大学等の関係機関と連携を進めるとともに、一定の条件を満たす医師については正職員化を図り、医師の確保に努めます。 また、教育研修プログラムの一層の充実により、臨床研修医の確保を図ります。</p>		28	<p>【業務実績】 医師の確保について大学医局への働きかけを継続して行ったほか、一定の条件を満たす医師について正職員化しました。</p> <p>・嘱託職員の正職員化 2名（前年度3名）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】 研修医について研修医向けの説明会や大学OBの勧誘などを積極的に行った結果、秋田市内の病院では唯一3年連続フルマッチとなりました。</p> <p>・臨床研修医マッチング 8名募集8名マッチング（前年度8名募集8名マッチング）</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 嘱託医師の正職員化や臨床研修医のフルマッチにより医師を確保出来たことによる。</p>	IV	
<p>イ 看護師 看護師養成機関との連携や就職説明会の開催、採用試験の複数回実施等により、看護師の確保に努めます。</p>	<p>イ 看護師 看護師養成機関との連携や就職説明会の開催、採用試験の複数回実施等により、看護師の確保に努めます。</p>		29	<p>【業務実績】 看護学校の病院実習を積極的に受け入れるとともにインターンシップや病院見学会の開催により、多くの看護学生にPRを行いました。 また、積極的に就職説明会へ参加したほか、採用試験を複数回開催するなど看護師の確保に努めました。</p> <p>・18人募集 18人採用（前年度18人募集17人採用） ・看護実習受入 114人（前年度91人） ・病院見学およびインターンシップ参加 33人（前年度24人） ・就職説明会参加回数 5回（前年度6回） ・採用試験実施回数 2回（前年度3回）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ウ 医療技術者 医療環境や業務量の変化に応じた柔軟な医療技術者の確保および配置に努めます。	ウ 医療技術者 医療環境や業務量の変化を見極め、それぞれの職種において適正な人員の配置に努めます。	【27年度計画目標指標】 医師事務作業補助者:22人(注) 3月1日時点	30	【業務実績】 臨床検査技師3名、診療放射線技師1名など、医療技術者を増員しました。 また、医師事務作業補助者を増員し、医師の負担軽減を図りました。 ・医師事務作業補助者 24人(前年度19人)*3月1日時点 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
(2) 人材育成 医療職職員について、医療等の専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、学会や研修会等への積極的な参加を促すとともに、職務上必要な専門資格や認定資格の取得の支援に努めます。 また、事務職職員についても、医療に関する知識の向上のため、研修会への積極的な参加や資格取得を促します。	(2) 人材育成 職員研修規程に基づく組織的な研修実施体制により、職員全員に対し、それぞれの職種や職責に応じた研修を実施するとともに、医療等の専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、学会や研修会等への積極的な参加を促します。 また、職務上必要な専門資格や認定資格の取得を支援するほか、必要な職員確保に向け奨学金制度を導入します。		31	【業務実績】 職員研修規程に基づき、保険診療や医療安全、院内感染等の研修を実施したほか、専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、学会や研修会等へ積極的に参加しました。 また、職務上必要な専門資格や認定資格の取得を支援したほか、奨学金制度を利用して助産師資格を取得した者を職員として採用しました。 ・資格取得支援 がん薬物療法認定薬剤師1名、認定看護師1名ほか 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>4 地域医療への貢献 地域の医療機関等との連携を強化するとともに、研修医の受入れ等により医療従事者の育成に努めるなど地域医療に貢献します。</p> <p>(1) 地域の医療機関等との連携強化 地域の急性期病院として、かかりつけ医をはじめとした地域の医療機関との連携を図り、紹介による急性期患者の受入れや急性期を脱した患者の逆紹介を推進し、機能分担を図るとともに、地域医療支援病院として承認されることを目指します。 また、退院後の療養に資するため、必要に応じて、福祉機関や保健機関、介護施設等とも連携を図ります。 さらには、地域連携クリティカルパスを適用する疾患の拡大を図り、それぞれの機能・役割を担う医療機関の間で共有することにより、患者にとって切れ目のない円滑な医療提供体制の実現に努めます。</p>	<p>4 地域医療への貢献 地域の医療機関等との連携を強化するとともに、研修医の受入れ等により医療従事者の育成に努めるなど地域医療に貢献します。</p> <p>(1) 地域の医療機関等との連携強化 当院が主催する「地域医療連携の会」を年2回開催するとともに地域医療連携誌「らしん盤」の毎月発行などにより、地域の急性期病院として、かかりつけ医をはじめとした地域の医療機関との連携強化に努めます。 そして、紹介による急性期患者の受入れや急性期を脱した患者の逆紹介を一層推進するほか、必要に応じて、福祉機関や保健機関、介護施設等とも連携を図ります。また、当院の病床の一部を地域医療機関に開放し、連携の強化と医療資源の有効活用を図ります。</p>		32	<p>【業務実績】 引き続き「地域医療連携の会」の開催や地域の医療機関訪問を実施したほか、地域医療連携誌「らしん盤」について、これまでの年3回の発行に加え、「月報らしん盤」を新たに発行し地域の医療機関との連携に努めました。 また、「あきたハートフルネット」を活用し、地域の医療機関へ転院する患者の診療情報を共有してスムーズな転院に努めました。 また、市立病院の病床の一部を開放型病床として、地域の医療機関との共同利用を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携の会 2回開催、245名参加（前年度2回開催、205名参加） ・あきたハートフルネット利用件数 4件 ・地域医療支援病院紹介率 35.0%（前年度32.4%）、逆紹介率 106.6%（前年度105.6%） <p>* 紹介率：初診紹介患者数 / (初診患者数 - 初診救急搬送患者数 - 初診時間外患者数) 逆紹介率：逆紹介患者数 / (初診患者数 - 初診救急搬送患者数 - 初診時間外患者数)</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(2) 教育研修の推進 地域の医療を担う医療従事者の育成に貢献するため、研修医や医療教育機関からの実習生の受入れを行うほか、専門医等の育成に努めます。</p> <p>ア 研修医の育成 教育研修プログラム等の一層の充実を図り、臨床研修指定病院として、研修医の技術・知識の向上に寄与します。</p>	<p>(2) 教育研修の推進 地域の医療を担う医療従事者の育成に貢献するため、研修医や医療教育機関からの実習生の受入れを行うほか、専門医等の育成に努めます</p> <p>ア 研修医の育成 教育研修プログラム等の一層の充実を図り、臨床研修指定病院として、研修医の技術・知識の向上に寄与します。</p>		33	<p>【業務実績】 臨床研修指定病院として、初期臨床研修医8人を受入れたほか、他院からの医学研修の受入れも行いました。</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
イ 実習生の受入れ 秋田大学医学部、秋田市医師会立秋田看護学校等の実習病院として、次世代を担う医師・看護師の教育に努めるとともに、医療技術者の育成のため、薬剤部・栄養室・リハビリテーション科等においても実習生の受入れに努めます。	イ 実習生の受入れ 秋田大学医学部、秋田市医師会立秋田看護学校等の実習病院として、次世代を担う医師・看護師の教育に努めるとともに、医療技術者の育成のため、薬剤部・栄養室・リハビリテーション科等においても実習生の受入れに努めます。また、秋田市との救急業務に関するメディカルコントロールについての協定により、救急救命士の病院前救護に関する医学的知識や技能の習得に協力します。		34	【業務実績】 将来の医療従事者を目指す県内外の実習生の受入れを行いました。 ・医学生 155人（前年度151人） ・看護学生 114人（前年度91人） ・その他実習生 21人（前年度49人） ・救急隊等 11人（前年度19人） 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
ウ 専門医等の育成 学会又は日本専門医機構が認定する専門医の研修施設として、専門医の育成に努めるなど、地域における医療の中核となる人材の育成を図ります。	ウ 専門医等の育成 各種学会が認定する専門医の研修施設として、専門医の育成に努めるなど、地域における医療の中核となる人材の育成を図ります。		35	【業務実績】 各種学会が認定する専門医の研修施設として専門医の育成に努めるとともに、新専門医制度における内科専門医の基幹研修施設として認定されるよう日本内科学会へ申請しました。 ・専門医等の研修施設認定 36件（前年度36件） 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
(3) 市民への保健医療情報の提供・発信 市民の健康づくりを推進するため、各種院内教室や健康講座を実施するとともに、保健所等、市の関係機関と連携して出前講座を実施し、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めます。 【中期計画目標指標】 院内教室等実施回数：40回 出前講座実施回数：12回	(3) 市民への保健医療情報の提供・発信 市民の健康づくりを推進するため、各種院内教室や健康講座を実施するとともに、保健所や公民館など市の関係機関と連携して出前講座や民間の健康食堂との連携による健康カフェを実施し、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めます。	【27年度計画目標指標】 ・院内教室40回 ・出前講座・健康カフェ等実施回数50回	36	【業務実績】 院内教室や健康講座の開催に加え、保健所と連携し広報あきたへの「健康ライフ太鼓判」の連載により、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めました。また、地域や公的機関が主催する健康教室等に職員を派遣しました。 ・院内教室開催 44回（前年度46回） ・出前講座・健康カフェ等実施回数 23回（前年度4回） ・講師派遣回数 41回（前年度33回） ・健康ライフ太鼓判掲載回数 6回（前年度2回） 【特記事項】 市の関係機関等と連携し、「タニタ健康カフェ」と「あらや健康セミナー」を新たに立ち上げ、医療や健康に関する情報の発信と普及啓発に努めました。 【自己評価の理由】 市民の健康増進のため、当院が主体的に地域に向いて行う活動が増えたことによる。	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>5 災害時の体制強化 大規模な災害や事故などの発生時に被災地に駆けつけ救急医療を行うために組織した災害派遣医療チーム（DMAT）の充実を図り、2チーム体制を目指します。</p> <p>また、災害時には、災害協力医療機関として、秋田市保健所・秋田市医師会等の関係機関や災害拠点病院と協力して対応に当たることとし、災害時対応訓練の強化と災害備蓄品の整備を行います。</p> <p>さらには、病院間災害支援協定を締結している仙台市立病院および山形市立病院済生館との連携を維持し、災害時の人的・物質的援助を優先的に提供しあうこととします。</p>	<p>5 災害時の体制強化 大規模な災害や事故などの発生時に被災地に駆けつけ救急医療を行うために組織した災害派遣医療チーム（DMAT）の充実を図り、2チーム体制を目指します。</p> <p>また、災害時には、災害協力医療機関として、秋田市保健所・秋田市医師会等の関係機関や災害拠点病院と協力して対応に当たることとし、院内での災害時対応訓練を強化するとともに3日分以上の災害備蓄品を確保します。</p> <p>さらには、病院間災害支援協定を締結している仙台市立病院および山形市立病院済生館との連携を維持し、災害時の人的・物質的援助を優先的に提供しあうこととします。</p>		37	<p>【業務実績】 DMATを2チーム体制とし、技能維持訓練や参集訓練に参加しました。 また、秋田県総合防災訓練への参加、3日分以上の災害備蓄品の確保について、引き続き行いました。</p> <p>・DMAT出動 0件（前年度出動待機 1件）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>第3 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営企画・分析力の向上 研修や資格取得などにより、医療に関する事務について高い専門性を持つ人材を育成するとともに、病院経営に関する知識や経験を有する人材の採用などにより、事務部門における経営企画・分析力の向上を図り、経営の強化に繋がります。</p>	<p>第2 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営企画・分析力の向上 経営企画部を設置し、情報部門の一元化を図るとともに、経営戦略的な観点で診療情報等の分析を行い、経営の強化に繋がります。また、平成27年度においても職務経験者採用を行い、病院経営に関する知識や経験を有する人材の確保を図ります。</p>		38	<p>【業務実績】 経営企画部を設置し、情報部門を一元化しました。 また、平成27年度においても、事務職員について、医療事務や情報システム分野に精通した人材を採用しました。</p> <p>・事務系職務経験者採用 6名（前年度5名）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、十分な経営分析までは至らなかったことによる。</p>	III	
<p>2 外部評価 現在認定を受けている公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の次回更新（平成27年度）に向けて、患者サービス・医療機能向上委員会が中心となって、更なる医療の質の向上とサービスの改善を図ります。</p> <p>なお、次回更新時の審査結果については、ホームページで公表し、市民の信頼の確保に努めます。</p>	<p>2 外部評価 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の次回更新（8月）に向けて、患者サービス・医療機能向上委員会内に病院機能評価の受審準備のための専門部会において、当院が提供する医療の質と患者サービスについての点検を行います。</p>		39	<p>【業務実績】 病院機能評価の認定更新に向け、受審のための専門部会での検討結果を踏まえて、各部門で医療の質と患者サービスについて改善を行いました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】 病院機能評価を受審の結果、「一般病院2」について認定が更新されたほか、今回が初めての受審となる副機能の「精神科病院」も認定となりました。</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施し、認定が更新されたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>3 効率的な診療体制の構築</p> <p>電子カルテシステムを導入し、各部門間において患者情報を共有化することにより、医療の提供の効率化を図ります。</p> <p>また、院内のクリティカルパス（クリニカルパス）の一層の推進を図ることなどにより、部門や職種を超えた職員のスムーズな連携のもと、チーム医療による効果的・効率的な医療を実施します。</p>	<p>3 効率的な診療体制の構築</p> <p>眼科診療や手術等のシステムを導入し、電子カルテシステムと接続して、患者情報の共有化と医療提供の効率化を図ります。</p> <p>また、院内のクリティカルパス（クリニカルパス）について、随時内容の見直しを行い、医療の標準化を推進します。</p>		40	<p>【業務実績】</p> <p>平成27年3月から導入した電子カルテに、新たに導入した眼科、手術および人工透析の部門システムを接続し、患者情報の共有化等の拡大を図りました。</p> <p>また、クリティカルパスの電子カルテへの移行については、使用頻度の高いものから順次適用を開始し、医療の標準化を図りました。</p> <p>・クリティカルパス使用率（患者数）15.1% *平成27年度第4四半期</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】</p> <p>概ね年度計画どおりに実施できたが、クリティカルパスの電子カルテへの移行が十分に進まなかったことによる。</p>	Ⅲ	
<p>4 経費の節減</p> <p>複数年契約や複合契約等の多様な契約手法により購入価格の引下げを図るとともに、可能な限り後発医薬品（ジェネリック医薬品）への切替えを推進し、経費の節減に努めます。</p> <p>【中期計画目標指標】</p> <p>医業収益に対する診療材料費割合（税抜き）：10.0%</p> <p>医業収益に対する薬品費割合（税抜き）：11.0%</p>	<p>4 経費の節減</p> <p>契約に際しては、競争性を確保しつつ、提案方式による業者選定、複数年契約、事業種類を組み合わせた複合契約など多様な契約手法を活用し、契約金額の圧縮に努めます。</p> <p>また、安全性や供給安定性に配慮しつつ、可能な限り後発医薬品への切替えを推進するほか、預託型SPDの導入等により経費の節減に努めます。</p>	<p>【27年度計画目標指標】</p> <p>・医業収益に対する診療材料費割合（税抜き）：10.0%</p> <p>・医業収益に対する薬品費割合（税抜き）：11.6%</p> <p>・後発医薬品使用率（数量ベース）：60.0%</p>	41	<p>【業務実績】</p> <p>提案方式による業者選定を行いSPDを預託型に切り替えて在庫の圧縮に努めるとともに、可能な限り後発医薬品へ切り替えて経費の節減を図りました。</p> <p>・医業収益に対する診療材料費割合（税抜き） 9.4%（前年度9.7%）</p> <p>・医業収益に対する薬品費割合（税抜き） 13.2%（前年度11.8%）</p> <p>・後発医薬品使用率（数量ベース） 72.7%（前年度63.1%）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】</p> <p>後発医薬品への切り替えは進んだが、新規の肝炎治療薬や抗がん剤など高額医薬品の使用量が増えたことから、医業収益に対する薬品費の割合が増えたことによる。</p>	Ⅲ	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>5 医業収入の確保 診療報酬改定等の制度改正への迅速かつ適切な対応や未収金対策の強化により、医業収入の確保に努めます。</p> <p>(1) 診療報酬請求事務の体制強化 診療報酬の請求を担当する職員に対する専門研修の実施や医療事務の経験が豊富な人材の採用などにより、診療報酬改定等に迅速かつ適切に対応することができる体制を構築し、診療報酬の請求漏れや減点等の防止を徹底することなどによる医業収入の確保に努めます。</p>	<p>5 収入の確保 診療報酬改定等の制度改正への迅速かつ適切な対応や未収金対策の強化により医業収入の確保に努めます</p> <p>(1) 診療報酬請求事務の体制強化 診療報酬請求事務を行っている委託業者を指導できる高い専門知識を持つ職員を採用又は育成し、診療報酬改定等に迅速かつ適切に対応することができる体制を構築して診療報酬の請求漏れや減点等の防止を徹底するよう努めます。</p>		42	<p>【業務実績】 診療報酬請求に関する専門知識を持つ職員を採用し、診療報酬請求事務の強化を図りました。 また、診療報酬請求業務委託会社との診療報酬ワーキングや院内での診療報酬査定返戻報告会を立ち上げ、査定・返戻レセプトの削減についての具体的な対策を行いました。</p> <p>・医事課配属職務経験者 3名（前年度3名）</p> <p>----- 【特記事項】 DPC制度について職員の理解を深めるため、専門知識を持つ職員を講師に、DPC研修会を月1回開催したほか、平成28年度診療報酬改定に対して、早期の情報収集を行い、院内説明会を4回開催しました。</p> <p>----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(2) 未収金対策の強化 患者に対する入院時の説明の徹底や院内連携により未収金の発生防止に努めるとともに、未収金が発生した場合には、早期回収のため、督促や訪問回収に加え、法的措置の対応も引き続き行います。</p> <p>【中期計画目標指標】 個人分徴収率（現年度分）：99.0% （注）次年度5月末日時点</p>	<p>(2) 未収金対策の強化 入院時における医療費の支払いについての説明を徹底するとともにクレジットカード決済を継続し、未収金の発生防止に努めます。 また、未収金が発生した場合には、債権管理規程および未収金対策マニュアルに基づき、未納者に対して督促等を行い、一定の期間が経過しても納付がなされない場合には、必要に応じて支払督促の申立て等の法的措置を行うほか、回収業務の民間委託を引き続き実施し未収金の回収に努めます。</p>	<p>【27年度計画目標指標】 ・個人分徴収率（現年度分）：98.4% （注）次年度5月末日時点</p>	43	<p>【業務実績】 入院時の概算費用の提示や高額療養費制度等について説明を徹底したほか、クレジットカード決済を継続し、未収金の発生防止に努めました。 未収金が発生した患者に対しては、関係部門で連携し、積極的に分割払いなどの納入相談を実施したほか、未納者に対してはその段階に応じて督促等を行いました。 また、督促等に応じない回収困難な過年度の債権回収業務を弁護士事務所に委託し、未収金の回収に努めました。</p> <p>・個人分徴収率（現年度分）：98.9%（前年度97.8%） （注）次年度5月末日時点</p> <p>----- 【特記事項】</p> <p>----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
	(3) 7：1入院基本料の堅持 7：1入院基本料を維持して、収入の確保を図ります。		44	<p>【業務実績】 7：1入院基本料の要件は、十分に満たしており、収入の確保は図られているものの、平成28年度診療報酬改定に伴い7：1入院基本料に対する重症度、医療・看護必要度が厳格化することから、今後の更なる厳格化に備え、急性期治療を経過した患者に対して在宅復帰支援を行う地域包括ケア病棟を試行的に開設し、他の一般病棟の7：1入院基本料の維持を図るための取り組みを行いました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
	(4) 医業外収入の確保 病院資産を有効活用するなど、新たな収入の確保のための検討を行い、実施可能なものについては、具体的な取り組みを進めます。		45	<p>【業務実績】 病院資産の有効活用のため、清涼飲料水の自動販売機の設置業者を入札で選定した結果、建物貸付収入が増加しました。 また、院内地下売店のサテライトショップを正面玄関入口付近に開設させ、新たな貸付料を得ることができました。</p> <p>・建物貸付収入（売店・自販機） 26,380千円（前年度10,380千円）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 貸付料収入が大幅に増えたことによる。</p>	V	
第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画および資金計画 公立病院として求められる公的使命を確実に果たすため、市からの運営費負担金等の交付の下、「第3 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」を着実に実行し、中期目標期間中の経常収支比率について100%以上を堅持し、安定した財務基盤を確立します。	第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画および資金計画		46	<p>【業務実績】 財務諸表および決算報告書を参照</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>第10 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 法令・行動規範の遵守 医療法をはじめとする各種関係法令や臨床倫理に係るガイドライン等を遵守し、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、病院内の倫理委員会又は治験審査委員会において十分な検討を行います。 また、患者の個人情報の保護と患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例（平成17年秋田市条例第11号）および秋田市情報公開条例（平成9年秋田市条例第39号）に基づき適切に対応します。 なお、職員の倫理と行動規範については、その確立のため、倫理や服務等に関する規程を整備し、職員にその周知徹底を図ります。</p>	<p>第8 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 法令・行動規範の遵守 医療法をはじめとする各種関係法令や臨床倫理に係るガイドライン等を遵守し、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、病院内の倫理委員会又は治験審査委員会において十分な検討を行います。 また、患者の個人情報の保護および患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例（平成17年秋田市条例第11号）および秋田市情報公開条例（平成9年秋田市条例第39号）に基づき適切に対応します。 なお、職員の倫理と行動規範については、その確立のため、職員倫理規程および職員服務規程の周知徹底を図るとともに、全職員を対象にコンプライアンス研修を実施します。</p>		47	<p>【業務実績】 医療法をはじめとする各種関係法令を遵守のうえ、倫理的な問題を含むと思われる医療行為については、倫理委員会又は治験審査委員会において検討し承認を受けた上で実施しました。 また、患者の個人情報の保護および患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例に基づき適切に対応しました。また、職員の倫理と行動規範の確立のため、弁護士によるコンプライアンス研修を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会 16件承認（前年度20件承認） ・治験審査委員会 25件承認（前年度61件承認） <p>情報開示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報開示 8件（前年度2件） ・情報公開 0件（前年度0件） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>2 新たな人事制度の構築と就労環境の整備 職員の意欲を高め、能力を最大限に発揮させるため、新たな人事制度を構築するとともに、職員の就労環境の整備を図ります。</p> <p>(1) 新たな人事制度の構築 職員の勤務成績等を適正に評価する人事評価制度やその評価結果を反映する給与制度などについて検討し、次期中期目標期間からの導入に向け、その準備を進めます</p>	<p>2 新たな人事制度の構築と就労環境の整備 職員の意欲を高め、能力を最大限に発揮させるため、新たな人事制度構築のための準備を行うとともに、職員の就労環境の整備を図ります。</p> <p>(1) 新たな人事制度の構築 職員の勤務成績等を適正に評価する人事評価制度やその評価結果を反映する給与制度などの次期中期目標期間からの導入に向けて、地方公務員における制度の動向等注視し取り組みを進めます。</p>		48	<p>【業務実績】 新たな人事制度構築のため、他の地方独立行政法人病院の制度導入状況および秋田市の制度運用状況について情報収集に努めました。 また、事務職員および医療技術職員について、自己評価と所属長面接による人事評価を実施しました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(2) 就労環境の整備 地域医療を守る使命を全ての職員が共有し、一体となって質の高い医療を提供できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した就労環境の整備に努めます。 ア 多様な勤務形態について検討し、職員にとって働きやすく、働きがいのある就労環境の整備に向けての取組を推進します。	(2) 就労環境の整備 地域医療を守る使命を全ての職員が共有し、一体となって質の高い医療を提供できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した就労環境の整備に努めます。 ア 短時間勤務正職員や夜勤専門看護師の制度について検討するとともに、看護師の多様な勤務シフトについて試行します。 また、育児休業、介護休業などの福利厚生制度についての周知を図るため、説明会等を実施するほか、必要な情報をいつでも閲覧できるようホームページに職員専用サイトを設けます。		49	【業務実績】 看護業務が集中する時間帯に看護師を多く配置し、患者ケアの充実と時間外勤務の縮減によるワークライフバランスの推進を図るため、早出・遅出勤務を一部の病棟において試行的に実施しました。 また、福利厚生制度については、新規職員への採用時研修での説明、職員専用サイトでの周知を引き続き実施しました。 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
イ 院内保育所を設置・運営し、職員の育児を支援します。	イ 院内保育所を設置・運営し、職員の育児を支援します。		50	【業務実績】 院内保育園を開設し、職員の育児支援を行いました。 ・院内保育園「こどもの国」 定員 20名 開設日 年中無休 保育時間 7:00～18:00（延長保育21:00）、 週3日24時間 保育実施 平成27年度利用者 16名（0歳児7名、1歳児9名） *年度末現在（前年度13名） 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
ウ 職員の健康保持のため、メンタルヘルスを含む健康相談体制を整備します。	ウ 職員の健康保持のため、産業医等によるメンタルヘルスを含む健康相談体制を維持するほか、衛生委員会を毎月開催します。		51	【業務実績】 衛生委員会において、法で実施が義務づけられたストレスチェック制度の実施方法について検討を行いました。 また、職員のメンタルヘルス相談体制について、職員専用サイトでの周知を引き続き実施しました。 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	

中期計画	27年度計画	年度計画評価指標	連番	27年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
3 移行前の退職給付引当金に関する事項 移行時に計上すべき退職給付引当金3,080百万円については、移行時に職給付引当金2,000百万円を計上し、残りの額1,080百万円は中期目標期間内に全額を計上します。	3 移行前の退職給付引当金に関する事項 移行前の退職給付引当金の不足額1,080百万円のうち、平成27年度分として216百万円を計上します。		52	【業務実績】 移行前の退職給付引当金として216百万円を計上しました。 ----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	